学内外で活躍――羽ばたく4年次生

オンラインを上手に活用し世界を広げる

国際交流

岩崎 佑哉さん（ネット情報）

インドネシア訪日団の書道体験で。中央が岩崎さん

コロナ禍ではさまざまな活動がオンラインで行われる機会が増えた。岩崎佑哉さん（ネット情報４）はこうした環境を利用し、積極的に学外のイベントに参加し、学びを広げた。

コロナ禍の活動制限中、「オンラインなら気軽に受講できる」とネットで見つけた講座に参加。最初は聴講するだけだったが、やがてアイデアを生み出すアイデアソンや起業家育成プログラムなどにも参加するように。

最近ではリアル（対面）で活動することも増えた。一般財団法人日本国際協力センター（ＪＩＣＥ）が主催する対日理解促進交流プログラム「JENESYS2023」では、派遣国インドネシアとの交流を担当。１月のプレプログラムでは、インドネシア訪日団に秋葉原の歴史をレクチャーしたり、習字を披露したりした。

２月末から３月上旬の本プログラムはオンラインで実施され、日本の大学生の一日を発信し、インドネシアの人々に日本文化を伝えた。

時間や場所を超えて、さまざまな人とつながり新しい知識を得ることができるオンラインの利点を上手に活用し、世界を広げていった岩崎さん。「新しいものを作る喜びや、知らない人と出会う楽しさを知ることができました」と振り返る。

システム研究開発

村上 あさひさん（ネット情報）

″おもかげ″使った画像認証システム構築

村上あさひさん（ネット情報４）は、この１年間、画像による認証システムの研究開発に力を注いだ。システムの名は「おもかげパスワード」。現在、実用化に向け最後の追い込みをかけている。

村上さんは情報セキュリティが専門の石井健太郎研究室に所属。おもかげパスワードの開発により、「のぞき見の恐れやパスワード忘れという問題の解消」を目指した。ユーザーは家族や友人、著名人など任意の顔画像をパスワードとして登録。認証時にはＡＩが生成した複数の顔画像候補が提示され、設定した顔画像そのものではなく、「おもかげ」の似たものを選ぶ――という仕組みだ。

おもかげパスワードを開発した村上さん

国立研究開発法人情報通信研究機構の人材育成プログラム「SecHack365」に採択され、年齢も経歴もさまざまな受講生たちと研究に打ち込んだ。

夏には試作品が完成。その後、情報処理学会コンピュータセキュリティシンポジウムで論文を発表した。「想像以上の反響があり、励みになりました」と語る。持ち前の積極性を発揮し、学内外で多様な人たちと関わり、研究に打ち込んだからこそ得られた貴重な財産だ。

卒業後はＩＴ企業で働きながら開発を続ける。まずは小学校のＩＣＴ教育分野での実用化を目指す。「大学生活で培った知見とスキルを、社会課題の解決に役立てていきます」と夢の実現に進む。

異文化コミュ１期生

久徳 優衣さん（国コミュ）

コミュニケーションの楽しさ学んだ日々

国際コミュニケーション学部は１期生が卒業を迎えた。新設の異文化コミュニケーション学科は、２年次で予定されていた海外研修留学が、コロナの影響で３年次での実施になるなど、さまざまな事態に対応しながら、学生たちは確かなコミュニケーション能力を身につけていった。

１期生として４年間を振り返る久徳さん

久徳優衣さん（国コミュ４）は「相談できる友達や先輩もいなくて」、戸惑いながら大学生活のスタートを切った。しかし前向きにオンライン授業を楽しみ、留学に向け語学の勉強に励んだ。

３年次の前期、念願の韓国留学へ。「韓国の人はもちろん、国も年齢も異なる留学生と韓国語で交流するのはとても楽しかった」と振り返る。

帰国後は、ほかの国に留学した同級生とともに学ぶことで見識を広げることができた。「以前は引っ込み思案でしたが、留学を機に、積極的に話しかけることができるようになりました。相手に興味があったらまず問いかけることが大事」と学んだ４年間だった。

「コロナで思うようにいかないこともたくさんありましたが、この学部でコミュニケーションの楽しさや大切さを学び、語学を習得し、いろいろな挑戦をして、成長を実感しています」と久徳さんは晴れやかに笑った。

ジュノンボーイファイナリスト

須賀 涼斗さん（経営）

夢はライダー俳優　新たな舞台の幕開け

須賀涼斗さん（経営４）は「第36回ジュノン・スーパーボーイ・コンテスト」のファイナリストに選ばれた。得意のサッカーや筋トレで鍛えた身体と、前向きな気持ちを武器に、芸能活動を開始した。

体育会サッカー部所属の須賀さんはプロ選手が夢だったがけがで断念。部活動を続けながらも、新たな夢を模索していた。幼いころから大好きだった仮面ライダーシリーズに、ジュノンボーイ出身俳優が多数出演していたことから、コンテスト参加を決めた。

「コンテストでの応援に感謝でいっぱい」と須賀さん

今大会の応募総数は１万5155人。書類審査やオーディション、配信アプリやハガキ投票などで１月ごとに人数が絞られていき、昨年11月、ファイナリスト15人に選ばれた。「配信では、毎日いろいろな企画でアピールしました。友人やサッカー部の仲間も応援してくれ、直接知り合いではない学生もフォローしてくれるなど、専大生の温かさを感じました」と激動の８カ月間を振り返る。

自身の魅力について「目標に対して熱い思いで突き進むこと。あとは足の速さかな」とさわやかに笑う。今年２月には舞台に初出演。「緊張したし、最初はダメかと思ったが、ほかの出演者のみんなと話し合い、切磋琢磨していい舞台にすることができました。この経験を生かし、仮面ライダー俳優はもちろん、さまざまな舞台で活躍できる俳優を目指します」と前を見据える須賀さんの新たなステージの幕は開いたばかりだ。

シンガーソングライター

アオイエマ。さん（法）

はかなく、強く、あきらめない思いを歌に

背筋が伸びるような凛とした歌声で優しく歌う。アオイエマ。さん（法４、本名非公表）は、シンガーソングライターとして活動している。

オリジナル曲のほかカバー曲にも挑戦

幼いころから歌手を夢見て、高校生からは2人組の音楽ユニットとして活動。昨年夏に解散し、ソロ活動を開始した。

同じころ大手のアーティスト養成講座を受けたことで「自分に足りない部分がたくさん見えてきました。今は課題を一つ一つこなす武者修行のような日々です」と話す。

這い上がれサヨナラ遠き日よ／悔しさはいつか味方になるから／叶うから　『アネモネ』

つむぎ出す歌詞とメロディーは少しはかなくて、でも希望をなくさない強さがある。「苦しいときも、あきらめずに越えていきたいという思いを込めています。同世代や10代の人たちに、この思いを届けたい」と、路上ライブやワンマンライブ、ＳＮＳでの発信を続けている。

オリジナル曲はApple Musicでも配信。人気アニメ『薬屋のひとりごと』最終回では挿入歌の歌唱を担当した。この春にはシングルやアルバムのリリース、新曲のミュージックビデオの発表を予定している。「一人で歌を作って届けることは苦しいけれど、このつらさを背負わないという選択肢は私にはありません。平坦な道ではないけれど、一歩一歩登りながら、歌を届けていきたいと思っています」

若手研究者奨励賞に

後藤さん（院文修２）

日本社会心理学会

大学院文学研究科心理学専攻修士課程２年の後藤日奈子さん＝写真＝が2023年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞を受賞した。

後藤さんは下斗米淳教授の社会心理学研究室で仮想空間上での動物との触れ合いが気分や内分泌系の変化に及ぼす影響を研究している。

受賞タイトルは「社会的不確実性が向社会的行動の個人差に与える影響。他者の利益を増やす行動である向社会的行動を、直感的に行うか熟慮的に行うかの個人差が、対人関係などの周囲の環境において裏切られる可能性といった不確実さを感じる程度によって形成されるという仮説をオンラインでの経済ゲームにより検討した。

ジャーナリズム学科 松原プロジェクト　TVF入賞

市民参加の映像祭・東京ビデオフェスティバル2024（TVF）に、文学部ジャーナリズム学科3年次生が制作したドキュメンタリー作品が入賞した。

TVFは、プロ・アマ不問、ジャンルやテーマ自由の映像祭。15回目となる今回は入賞作品となる「TVF2024アワード」として34作品が選ばれた。

入賞したのは福岡颯さん、土岡拓海さん、福本里桜さんの『貧困とフードロスに挑む』。3人が2年次後期に履修した松原文枝プロジェクトで作った作品だ。

松原プロジェクトでは、問題意識をいかに可視化するか学生自ら考え、身近な社会課題について取材やロケを行って映像を制作する。福岡さんたちは、神奈川県でこども食堂を主催するガーナ出身の男性や、食品ロス削減と貧困問題に取り組むNPO法人などへの取材を軸に、18分30秒の作品に仕上げた。賞味期限や流通など制度面の課題が食品廃棄の根底に絡んでいることなども指摘した。

撮影前には際にこども食堂の運営を手伝い、取材対象者との関係づくりに心を砕いた。「フードロスの一方、日々の食事にも困っている人がいる。なぜこうした矛盾が生まれるのか、その一端を伝えることができた」と3人は語る。

ジャーナリズム学科の松原ゼミ・プロジェクトの入賞は3年連続。

ＴＶＦ2024に入賞した３人

生田緑地スプリングフェスタ2024

陸上競技部とスポーツ研究所が協力

スポーツ通して市民と交流

元気いっぱいの子どもたちと陸上競技部員が競走

地域とともに

社会貢献活動

3月2日、川崎市の生田緑地で開催された「スプリングフェスタ2024」（生田緑地共同事業体主催）に、陸上競技部や専修大学スポーツ研究所（佐藤満所長）が協力した。陸上競技部は「かけっこ」、スポーツ研究所は「ポールウオーキング」の体験会を開き、地域の方と交流を深めた。

陸上競技部は、「かけっこの極意」と題した親子向けイベントを企画。箱根駅伝出走経験のある選手ら10人が講師を務めた。冷たい風が吹くなか、元気いっぱいの小学生たちに、「足をつくる」ためのストレッチや速く走るコツを教えた。小学4年の男子は「背筋を伸ばし、足を高く上げて腕をしっかり振るという説明がかりやすかった」と話した。

ポールウオーキングを楽しむ参加者たち

主将の千代島宗汰さん（文３）は「今回学んだことを体育の授業や部活動などで役立ててほしい」と、子どもたちに語りかけていた。

スポーツ研究所は、手軽に有酸素運動に親しんでもらおうと、ポールウオーキングの体験会を開いた。同研究所の齋藤美文学部教授の指導のもと、参加者たちは両手に専用ポールを握り、高低差のある約3キロのコースを歩いた。齋藤ゼミの学生3人も運営に協力し、参加者をサポートしながら、気持ちの良い汗を流した。

かわさき映像創作展

優秀賞に3作品

福冨プロジェクト　藤原プロジェクト

アマチュア映像コンテスト「第41回わが町かわさき映像創作展」（川崎市総合教育センター主催）で、文学部の福冨忠和プロジェクトの2作品と、ネットワーク情報学部の藤原正仁プロジェクトの1作品が優秀賞を受賞した。2月17日、川崎市総合教育センターで表彰式・作品上映会が行われた。

福冨プロジェクト（2年次）は、生田キャンパスがある川崎市の魅力を学生目線で紹介する情報バラエティ番組「かわスキ」を毎月制作し、地元ケーブルテレビ局「YOUテレビ」で放映している。この番組用に制作した映像をコンテストに応募した。

福冨プロジェクトの3人

高野葵葉さんと深瀬智香さんがディレクターを務めた受賞作では、市内の博物館や水族館など親子で楽しめる人気スポットを紹介した。

もう一つの受賞作は、ミッションをこなしながらサイクリングを楽しむ映像。近藤夏実さんは活動を通じて、「企画を立てる難しさと楽しさを実感した」と話した。

藤原プロジェクトのメンバー

藤原プロジェクトは、生田キャンパス周辺の風景を独自の視点で切り取った作品で入賞した。リーダーの岡村俊治さん（ネットワーク情報３）は、「この映像を見て『行ってみたい』と思ってもらえたらうれしい」と語った。

ジャーナリズム学科　地域のPR映像を制作

文学部ジャーナリズム学科２年次の必修科目「応用実習」（福冨忠和教授）では、映像制作の企画や技術を学ぶ。地域PRのための映像を制作する授業では、川崎市幸区と川崎区に関する30秒の作品作りに取り組んだ。

両区の職員が審査にあたり、幸区では佐藤康太郎さんら４人の作品が、川崎区では河守明日香さんら４人の作品が、それぞれ最優秀賞に選ばれた。

2月7日に両区役所で表彰式があった。幸区の受賞作は区役所サイネージで上映される予定。

一方、体育会活動の魅力を紹介する映像制作の授業では、学生を中心に活動。最優秀賞には、バスケットボール部や総合体育館トレーニング室の様子を描いた伊藤虹歩さんら４人の作品が選ばれた。

2023年度 学部長賞受賞者

※敬称略、カッコ内は学年

経営学部

【国家公務員採用総合職試験合格】春山美優（４）

【アカウンティングコンペティション優秀賞、アグリカルチャーコンペティションブロック優勝】木代成汰、輝、床爪心音、西村省吾、崎野萌々子、小黒紗矢香、林田珠奈（以上３）

【フランドデザインコンテスト準グランプリ】今野優亮、野上大地、野口隼奈、中村きらり、原田優里、前野寛人（以上３）

【神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞】横山雅、田中杏樹、野口和真、鈴木詩太、清水愛恵、奇河璃、浦野雄馬、濱田壮史、飯島諏平、吉田匡希、齋藤諒、五嶋優斗、竹歳七彩、岩崎有沙（今村美玖、稲垣優斗、石崎省悟、上野将希、兼田祥吾、谷萩尚美、小竹孝哉、他１人）（以上３）

【柔道部鎌倉唐太郎（１）】

【スピードスケート部】蟻戸一永、野々村大陽（以上４）、菊池健太、谷垣優斗、三井晃太（以上３）、笠原光太朗（２）、重司一冴（１）

【東洋伝拳法部】堀辰至（２）

【馬術部】石川侑貴（３）

【バレーボール部】甲斐優斗（２）

【フェンシング部】大谷謙介（３）

商学部

【公認会計士試験合格】

杉森将貴、江頭陣元、大久保吾叶夢、小柳秀登（以上４）、山方裕貴、吉本彩桜、大谷出人、土屋力、古山朋城、押澤連（以上３）

【専修大学SDGsチャレンジプログラム学長賞】鶴巻拓、大川志帆、清水樹、津波智穂、小山優衣、呉明香里（以上３）

【アカウンティングコンペティション最優秀賞】浜村海登、渥美彩華、小林泉輝（以上４）

【神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞】河内日向子、郡山里希、伊藤潤介、志賀楓、渡邊敬太、市川凌平、松本麻里、北原慶士、小川泰希、高橋慶人、茂木花海、上田さな（以上３）

【スキー部】牧野桃（３）

【相撲部】アリユンエルデネ・スプバット（３）

【バスケットボール部】ジョベ・モハメド（１）

【ローラースケート部】會田倫太郎（３）

ネットワーク情報学部

★学部長賞

【国際大学対抗プログラミングコンテストアジア地区予選銅賞】中山大晟（４）、関根光、橋本拓弥（以上３）

★学部長賞★学部長奨励賞

【SecHack365優秀修了生、育友会奨励賞】村上あさひ（４）

★学部長奨励賞

【専修大学ベンチャービジネスコンテスト】村木英人、山口颯太、山口琴音、小松もも、田中裕貴（以上２）

2023年度 学部卒業者数

学部	学科	一部	二部	計
4年次以上 経済	経済	27	13	729
	現代経済	232	—	
	生活環境経済	240	—	
	国際経済	217	—	
法	法律	536	4	691
	政治	151	—	
経営	経営	368	—	543
	ビジネスデザイン	175	—	
商	マーケティング	428	8	648
	会計	212	—	
文	日本語	5	—	657
	日本文学文化	124	—	
	英語英米文	150	—	
	哲	72	—	
	歴史	131	—	
	環境地理	54	—	
	人文・ジャーナリズム	1	—	
	ジャーナリズム	120	—	
ネットワーク情報	ネットワーク情報	207	—	207
人間科	心理	73	—	219
	社会	146	—	
国際コミュニケーション	日本語	67	—	207
	異文化コミュニケーション	140	—	
合計		3,876	25	3,901
3年次 法	法律	3	—	3
	政治	0	—	0
	合計	3	—	3
総計		3,879	25	3,904

※学期末卒業者を含みます。

2023年度 大学院修了者数

研究科	専攻（コース）	修士課程	博士後期課程
経済学	経済学（社会経済コース）	3	0
	経済学（国際経済コース）	0	
	経済学（プロフェッショナルコース）	6	
	経済学（エコノミックリサーチコース）	1	
	小計	10	0
法学	民事法学	—	0
	公法学	—	0
	法学	11	—
	小計	11	0
文学	日本語日本文学	7	0
	英語英米文学	0	0
	哲学	0	0
	歴史学	8	0
	地理学	2	0
	社会学	6	0
	心理学	12	1
	小計	35	1
経営学	経営学（経営学コース）	5	0
	経営学（情報管理コース）	1	0
	小計	6	0
商学	商学（アカデミックコース）	6	0
	商学（ビジネスコース）	3	
	会計学（アカデミックコース）	5	0
	会計学（プロフェッショナルコース）	4	
	小計	18	0
合計		80	1

※特例措置修了者及び学期末修了者を含みます。

2023年度 専門職学位課程修了者数

研究科	専攻	合計
法務研究科	法務専攻	14